

令和4年度 専門分野

科目名	小児看護学	単位(時間)	5(160)	27期生	DP	
担当講師名	専任教員 他			1年次～3年次	1・2・3・4	
科目設定理由	<p>子どもはひとりの人間として成長・発達をし続ける独自の存在であることを学ぶ必要があります。子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を守る看護を考えていきましょう。</p> <p>また、子どもの各期の特徴は大きく異なるため、基礎看護学で学んだ原理原則をふまえた上で、子どもという対象に合わせた看護を学ぶ必要があります。小児の理解では、子どもの各期の特徴や小児看護の理念・役割・子どもを取りまく環境を学びます。小児看護援助論では、小児の理解の知識をふまえた上で、子どもが罹患しやすい疾患と症状を知り、様々な健康障害時に適切に対応できるような基本的な知識を学びます。小児看護技術では、基礎看護学の援助技術の原理原則をふまえた上で、子どもの特徴に応じた援助方法としての援助技術が身につけられるように学習します。また、状態や状況に合わせた子どもと家族の看護を学習することで、臨床判断に基づいた看護実践ができる能力を養います。</p> <p>小児看護学実習Ⅰでは、地域で生活する子どもの成長・発達過程に合わせた関わり方を学びます。また、心身障害児の生活を理解し看護の役割を考えられることを目的としています。さらに、小児看護学実習Ⅱでは小児看護学実習Ⅰを土台として、健康障害のある子どもの成長・発達段階を捉え、子どもとその家族に必要な看護を実践する基礎能力を養います。</p>					
科目構成	科目名	小児の理解	小児看護援助論	小児看護技術		
	単位時間	1単位20時間	1単位30時間	1単位20時間		
	学習範囲	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達の特徴 2. 小児看護の特徴と理念 3. 子どもと家族をとりまく環境 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに特有な疾患と治療 2. 症状と疾患のある子どもと家族の看護 3. 長期にわたる障害のある子どもの看護 4. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(入院・外来) 2. 治療・処置・検査を受ける子どもの看護 3. 状態や状況に合わせた子どもと家族の看護 		
	科目名	小児看護学実習Ⅰ				
	単位時間	1単位45時間				
実習のねらい	<p>小児看護学実習Ⅰ-1(保育所実習・こども館実習)は、健康な乳幼児との関わりを通して成長・発達の特徴を理解する実習です。子どもの健やかな成長を見守り育むために、地域でどのような支援がおこなわれているかを実際に体験から学ぶことのできる実習です。皆さんの中には、今まで子どもと子どもをとりまく環境に接する機会が少なかったり、小児看護に不安な気持ちを抱えている人もいることでしょう。保育所実習では、乳幼児の一日の生活リズムや日常生活を肌で感じ学べるチャンスです。日々違う年齢のクラスに入ることによって日常生活の自立と世話が成長発達によって異なることがみえてくるでしょう。こども館実習では、遊びをとおして、子どもらしい好奇心や創造性を伸ばし、仲間意識を育てる支援や子育て支援について学びます。また、集団生活をする子どもどうしの関係性をみて、性差、遊びや社会性の発達の視点から考えてみることをおすすめします。この実習では、積極的に保育士と一緒に活動し、遊びの種類や遊び方を参考に子どもとの関わり方のスキルを磨きましょう。さらに、感染症や事故の予防、家族との連携など乳幼児を取り巻く環境も視野に入れ小児看護への理解を深めましょう。</p> <p>小児看護学実習Ⅰ-2(特別支援学校・重症心身障害児施設実習)は障害のある子どもとの関わりをとおして子どもの成長する力やその子らしい生活を支援するための看護を学ぶ実習です。障害のある子どもの成長を促進できるよう日常生活援助、医療ケアおよび発達支援を看護師とともにいながら、その子なりに成長していることやその子らしい生活を支援する看護を学びましょう。また障害の種類や程度、発達段階によってさまざまな専門職が連携しながら、支援をしている様子から看護師の役割を考えましょう。この実習では、障害のある子どものリハビリテーションや自立に向けた看護を学べると思います。また生活習慣獲得の支援、コミュニケーションや遊びなど保育所実習での経験や学びを生かしながら関わられるでしょう。千葉県立野田特別支援学校では、学習や生活上困難のある子どもの自立に向けての支援を学びます。あさひ育成園や光陽園では言葉での意思疎通だけでなくごく僅かな表情やしぐさの変化を本人の意思として受け止め、子どもの思いに寄り添う看護を学びましょう。子どもの五感を刺激しながら、可能性を伸ばす支援が経験できると思います。</p> <p>障害のある子どもが一人の人間として尊重され、大切な存在であることを感じて欲しいと思います。また、持てる力を発揮しながら生活するための支援を学んで欲しいと思います。</p> <p>また今回の実習は、小児看護学実習Ⅱの基礎となる学習経験となります。子どもを思い描いた時、基盤となる成長発達の特徴を具体的に反映できる程度まで理解できているよう、研鑽に努めてください。皆さんがこの実習で子どもの純粋さや明るさに触れて子どもと関わる楽しさや喜びを感じられることを願っています。</p>					
科目構成	科目名	小児看護学実習Ⅱ				
	単位時間	1単位45時間				
実習のねらい	<p>小児看護学実習Ⅱは健康障害を持つ小児の成長・発達を理解し、対象の健康回復に向けた看護を学びます。小児看護学実習Ⅰで体験したように、子どもは好奇心旺盛で活気に満ちあふれた存在です。しかし健康障害や入院によって、子どもとその家族には様々な反応が起こります。子どもの成長・発達に合わせたコミュニケーションを用いて子どもとその家族に関わり、出現している症状や疾病から根拠ある観察を行いましょう。このとき、家族の分離状況が健康状態にどのような影響を及ぼしているのかを考えるとよりよく対象を捉えられることでしょう。</p> <p>また、子どもの過ごしてきた環境とその変化が子どもと家族の生活に与える影響にも関心を向けましょう。健康障害を持っていても子どもは成長・発達の過程にあるということに変わりはありません。子どもにとっての遊びの意義をふまえて子どもの成長・発達に合わせた日常生活をととのえ、子どもの権利や安全を守る最善の看護は何かを考えましょう。</p> <p>小さな体で病気と闘う子どもの姿をみると辛いと感じることがあるかも知れません。しかし、子どもは子どもなりに病気と向き合い頑張っています。子どもの頑張りを認め、対象のもっている力を生かし看護をすることが子どもの健康回復へとつながることを体験できる実習にしましょう。</p>					
学習を支える情報	<p>小児看護学では、子どもと家族の看護について学習していきます。まずは対象である子どもの理解を深めるため、身近にいるこどもや地域の中にいる子どもの遊んでいる様子、服装や玩具、日常生活の様子などに興味・関心を持ちましょう。また、子育て支援や子どもや家族をとりまく社会問題にも興味・関心を持ち、学習や子どもの看護に繋げていきましょう。</p>					